

## 志望校決定の仕方

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 来年4月に入学を希望する学校を決めることは受験生にとって緊急課題です。明確に希望校が決まっていない皆さんのために、今回は「志望校決定の仕方」について私の考え方を述べさせていただきます。

### (1) 通学が可能な学校であること

せっかく入学が許されても卒業までの一定の期間1日の休みなく通学ができなければなりません。自宅から通うのか、寮や下宿・マンション・知り合いや親せきの家から通うのかは別にして、「卒業まで通い通せるのか」は大問題です。

是非一度、自分が学生時代住所をもとうとする場所から希望する学校までその学校の学生がふつう利用する交通手段で行ってみて下さい。片道1時間半以上かかるようなら、考え直した方がよい場合が多いと思われます。通学に時間がとられ、又、体力をつかえず学校での勉強や家での予習・復習にさしつかえるからです。

### (2) 学費の支払いが可能であること

「私の家は大丈夫。何とかなる」と簡単なことのように考えている生徒の皆さんが最近はい多いように見受けられますが、卒業まで一体合計して直接・間接にいくら費用がかかるのかは大問題です。どうにかしてお金を払い切らねばなりません。家庭の経済状況を卒直に保護者の皆様はお子様に伝えるべきであるし、生徒の皆様は保護者の方にきくべきです。もし、大変な場合には、生徒がアルバイトを年間いくらしなければならぬのかも計算すればすぐに出てきます。そこまでもその学校に入学したいのなら、是非その心構えをくずさず卒業まで本人もアルバイトに精を出すべきです。

\*日本育英会ははじめ各種の奨学金制度がこの国にはあります。ただ、奨学金を受ける条件として、現在通っている学校で一定レベル以上の成績を通知票でとらなければなりません。開倫塾では、「学校の定期試験で100点をとってしまおう」と口をすっぱくして皆様にお伝えしています。100点をとれば、学校の通知票の評価が上がり、奨学金を利用させていただく条件が整うからです。

\*アルバイトをし、奨学金をいただきながら自分の希望する学校を通い通すことは学生として立派なことです。経済的に大変な場合も是非あきらめることなくいろいろな手段を模索しながら自分の道を求めて下さいますことを希望します。

### (3) その学校を卒業後、自分の希望する進路に進める可能性が高いこと

4年制の大学進学を高校卒業後希望しているにもかかわらず、実業高校に進学したり、日本大学

に進学希望をしているのに佐野日大高校以外に進学したり、国学院大学に進学希望なのに国学院大学栃木高校以外の高校に進学することは、ほとんど進学先の誤りといっても過言ではありません。実業高校からの4年制大学への進学は非常に困難を極めます。日本大学への進学は佐野日大高校が非常に有利です。本年3月佐野日大から日本大学へは343名が合格しました。ちなみに、他高校から日本大学へ志願した生徒数と合格者は次の通りです。

栃木県

高校名	志願者	合格者
宇都宮東	205	52
栃木	134	36
足利	161	33
宇都宮	99	32
佐野	114	24
真岡	89	24
大田原	137	23
宇都宮女子	97	22
鹿沼	113	21
作新	205	16
国学院栃木	206	16
栃木女子	71	15
石橋	75	14
栃木南	63	14
宇都宮北	115	13

群馬県

高校名	志願者	合格者
高崎	238	54
中央	218	50
太田	161	44
高崎女子	170	43
渋川	249	42
農大二高	395	40
富岡	201	34
桐生	185	33
前橋	123	27
伊勢崎東	135	23
太田東	113	23
沼田	138	21
前橋女子	92	18
太田女子	69	13

日本大学新聞 1990年6月1日号 「90年入試高校別合格ランキング」より作成

日本大学へ進学したいのならはじめから343名も合格する佐野日大高校へ進学した方が有利なことがおわかりになると思います。また、国学院大学栃木高校からは国学院大学へ175名、国学院大学栃木短期大学へ83名もの生徒が進学しております。国学院大学、国学院大学大学栃木短大への進学希望ならはじめから国学院大学栃木高校へ進学すべきこと、これまた明らかであります。

他にも数多くの付属高校があります。付属から直接上の大学や短大に進学が可能な学校がほとんどだと思いますので、エスカレーターにのったように大学入試を受けないで付属高校から直接大学に進学を希望する人は、付属高校への進学を目指すべきかと思います。

※ただし、大学入試を経た人と、付属から大学へ入った人とは、大学入学後の学力において大きなへだたりがあることがあります。とりわけ、付属からギリギリの成績で大学に入った人は、死にもの狂いで1日10時間以上勉強してきた入試経験者と余りにも学力差があるのにおどろくことでしょう。大学の先生も付属からの学生のレベルの低さをなげくことが多いようです。こんなことにならないように、付属高校に入っても大学入試を受験している同学生の生徒と同じようにどうか一所懸命基礎学力を身につけるための学習にお励み下さい。

※※医学部や難関の大学に進学する場合は、その学校に合格実績のある高校を選択することが何

よりも肝要です。一度入学してしまえば、学校の雰囲気や受験体制である一定のレベルまでいってしまうことが多いからです。自分で行きたい大学にその高校から今まで一人も合格したことがないようでしたら、自分がその学校のカリキュラム等すべて無視し、独学をりはじめての人にならなくてはなりません。

#### (4) 学校の雰囲気・校風が自分に合うこと

世の中には「合い性」というものがあります。どんなに他人がその学校が素晴らしいといっても、どうしても行きたくないところがあります。そんなときは、余り妥協しないで自分と「合い性」のよい学校を捜すべきです。世の中には数多く学校がありますから、よく捜せば必ず見つかります。入学してみて「こんなはずでは…」と思うより、入学前によく調査すべきです。

この秋に開かれる「学校祭」や「体育祭」など、絶好のチャンスです。進学を希望する学校に電話して、学校祭や体育祭の日程を教えてもらい、「積極的に」行ってみましょう。どんどんその学校の学生に声をかけ学校での生活や学校の雰囲気などを聞いてみましょう。校内見学会や学校説明会などにも「積極的に」参加して下さい。わからない点があれば会の終了後担当の先生にどんどん質問して下さい。

※自分の運命は自分で切り開く「クセ」をこの受験勉強を通して身につけて下さい。進学したい学校の情報も自分で歩きまわって「積極的に」集めましょう。じっとしていたのでは、不確かな「ウワサ」話しか入ってきませんので、判断を誤ってしまいます。入学後「こんなはずではなかった…」とくやまないように「積極的な」進学校に関する情報集めをおすすめします。

#### (5) 入学に値する学力を入試までに身につける自信があること

入学試験の日が昨年度とほぼ同じであるとすれば、入試まであと何日かはすぐ計算できます。それまでの期間・日数で希望する学校に入学できるだけの学力を身につけることができるかが大問題です。今の成績で大丈夫という人は、今の状態を維持すればよいのですから大した問題はありません(ただ、そんな人でも、不得意科目や不得意分野はあるでしょうから、ていねいにその分野を勉強しなおして下さい)。問題なのは合否スレスレのところにいる人と、合否スレスレの線までもいっていない人です。文字通り背水の陣をひいて、命がけのつもりで、全精力を傾け机に向う必要があります。眠る時間の7時間以外はすべて受験勉強のつもりでやって下さい。受験勉強は「頭」でするものではありません。「気力」と「体力」だけであるものです。今までのことは一切わすれ、ひたすら自分のもてる力をすべて入試日にむけて集中して下さい。「気力」が充実しており、眠る時間以外をすべて勉強にふりむけるだけの「体力」が持続すれば必ず合格できます。がんばって下さい。